

第 1 回検討会における意見の整理と 今後の検討の方向性

第1回検討会における意見のまとめ・要約

- 第1回目の検討会で出されたご意見を内容ごとに整理したところ、概ね4つの項目に分類できました（具体的な内容はP-2・3に記載）。
- 大まかな内容としては、①地域の高齢化や単身世帯化が進行しごみ出しに苦勞されている住民が増えている一方で状況には地域差が大きいこと、②現状でも地域包括支援センターや民生児童委員、NPO法人などによる支援が存在していること、③行政による幅広い戸別収集を望む意見がある一方で、家庭と行政との間の中間領域における支援が重要と考えられること、④ごみ出しは比較的早い時間帯に行わなければならないという時間的制約があり、それが福祉分野での支援を難しくしていること、などの意見が出されました。
- なお、本町内における支援の主体としては、以下のような団体等が考えられます。

- ・ 自治会
- ・ ステーションごとのごみ出し班
- ・ 地域包括支援センター
- ・ 社会福祉協議会（ふれあいサポート事業等）
- ・ 民生児童委員
- ・ NPO法人さわやかウエスト
- ・ シルバー人材センター
- ・ 相楽作業所

【参考】町内の自治会加入率

地域	加入率	地域	加入率
精北小学校区	57.8%	東光小学校区	63.3%
川西小学校区	72.2%	うち、光台	59.5%
精華台小学校区	85.2%	山田荘小学校区	64.4%
うち、精華台	90.2%	うち、桜が丘	57.6%
町全域	68.8%		

※上記の数値は厳密な統計情報ではありませんので、各地域の状況についての参考情報としてご覧ください。

第 1 回検討会における意見の整理

高齢者等のごみ出しの現状について

- ✓ 地域の高齢化が進みつつあり、高齢者の独居世帯や高齢者のみの世帯も増えている。
- ✓ ごみステーションまでの距離や高低差（階段）のある地域がある。
- ✓ 拠点収集方式であっても問題が顕在化していない地域もあり、状況には地域差がある。
- ✓ 要支援の方でもごみが上手く出せない方はおられる。
- ✓ 要介護認定を受けている方がごみ出しをしている際に、転倒して骨折しまったという事例があった。
- ✓ ペットボトルなどは軽い一方で、生ごみは重く、溜め込むことも出来ないのごみ出しは大変である。
- ✓ ごみステーションの清掃当番の対応が体力的に難しいという方もいる。

ごみ出しに関する支援の現状について

- ✓ 地域包括支援センターでは、依頼があれば動くので相談してほしいとのことだった。
- ✓ 木津川市シルバー人材センターでは支援を行っている事例があるとのことだった。精華町シルバー人材センターでもサポートサービスを行っておられるが、人材不足等により全てに対応可能かは不明。
- ✓ 困っている方を民生委員が助けているケースがあり、そういった方に相談することが大事。
- ✓ 高齢化により対象者が増えつつあり、個人が支援するのは限界がある。
- ✓ 要介護や要支援には福祉（介護）分野におけるサービスがあるが、要支援は利用できるサービスの制限があるほか、受けてくれる事業所も少ないという課題がある。
- ✓ ごみ出しは比較的早い時間帯（朝 8 時まで）であるため、事業所では対応しにくい。
- ✓ NPO法人さわやかウエストでは、朝 7 時から支援活動を行っている。

第 1 回検討会における意見の整理

高齢者等へのごみ出し支援制度 のあり方について

- ✓ 財源的な課題があることは認識するが、可能な限り幅広く戸別収集とすることが望ましい。
- ✓ 障害の級数等で区切った際に、支援対象にはならないが実際はごみ出しが困難な方もおられると思う。実態にあった制度設計としていただきたい。
- ✓ 支援制度では、ごみを収集作業するだけでなく見守りも兼ねているということを認識いただきたい。
- ✓ 大きなお宅の場合、家の玄関までは出せるが敷地の外までは出せないという方もおられ、本人の能力に応じて支援に幅があると良い。
- ✓ 相楽作業所では、支援を受ける側というだけでなく、支援をお手伝いをする側として動けることが出来ないか検討したい。

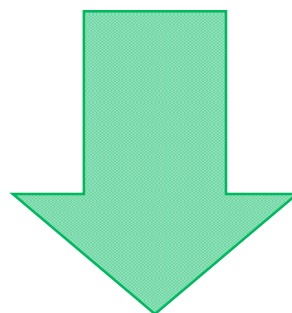
行政が行うごみ出し困難者への戸別収集 以外での支援について

- ✓ ごみステーションが遠すぎるなどの場合、困っている地域内で話し合い、合意が得られればステーションを増やすということも検討の一つかと思う。
- ✓ 他の自治体で、困っている方のごみを地域の助け合いで収集拠点に出されているケースもあった。そういった取り組みに対する補助があれば良い。
- ✓ ごみ出しはほぼ全国的に朝 8 時までというルールになっているが、それを見直す（緩和する）ことも 1 つの案かもしれない。当日の朝に出すようルール化しているのはカラスの問題があるからだが、地域の実情によっては検討の余地があり、カラスが来ないように生ごみの出し方も併せて検討が必要。
- ✓ 自治会での支援を推進し、自治会では対応できないことは行政の支援に持っていくというように、段階を経ていくのが良い方法かと思う。
- ✓ 家族での互助が難しくなる中で、新しい中間領域での支援が生まれている。行政が行う制度はどうしても高コストになってしまうため、なるべくそれは避けた方が良く、その中間領域の部分をどうやって厚くしていくかということが重要。

今後の検討の方向性

- ❑ 地域によって大きく異なる状況（地形、対象者数、地域での繋がりの有無、etc.）
- ❑ 地域内に複数存在する支援主体
- ❑ 支援に必要な人材や財源等の資源は限られている
- ❑ 地域での共助の取り組みの重要性

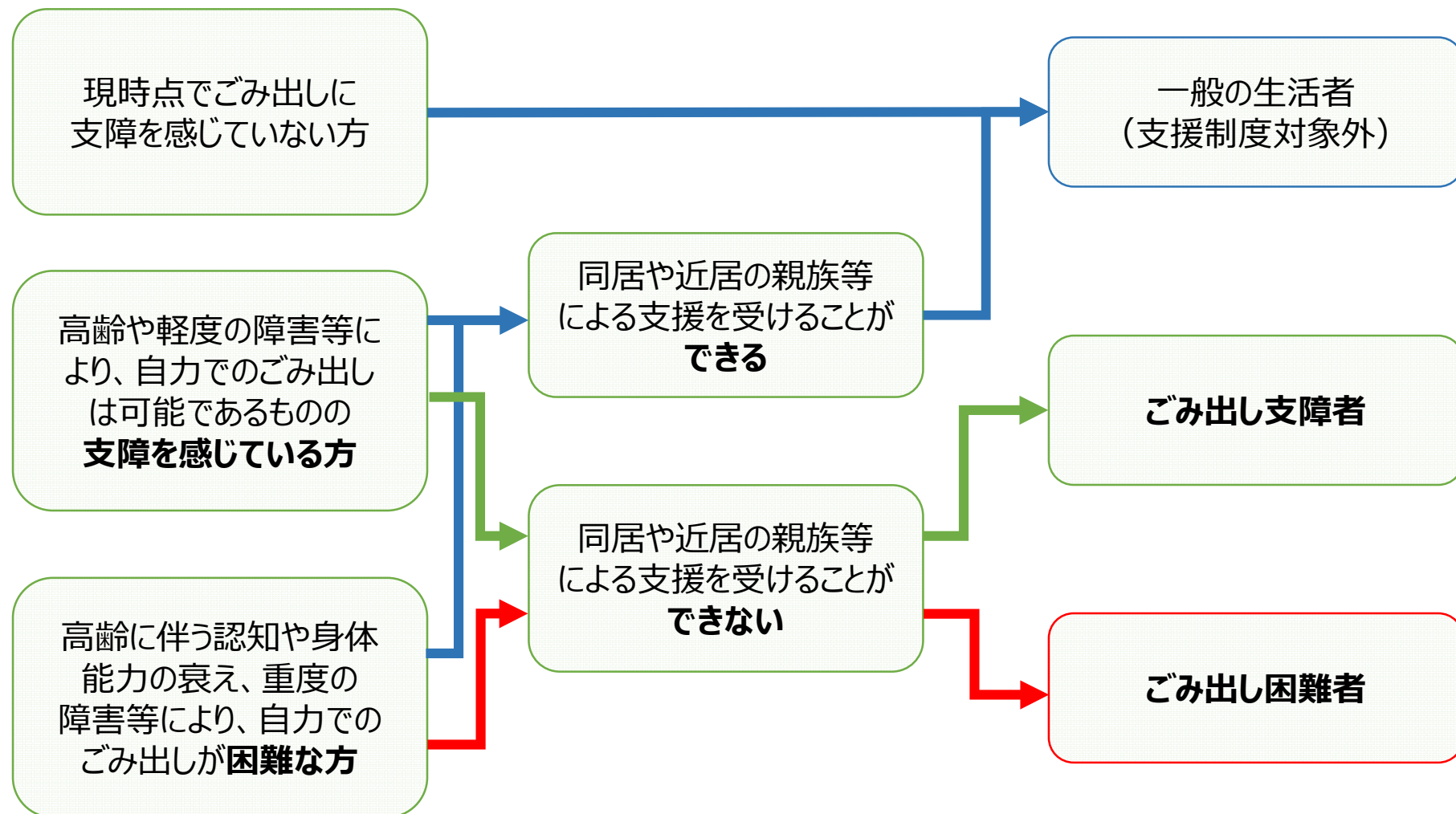
【取り組みの方向性】



重層的な取り組みにより、ごみ出し困難者ゼロを目指す

今後の検討の方向性

➤ 当事者の状況に応じた位置付けの整理



今後の検討の方向性

【課題】

対応可能な事業所・人材の不足等

(本検討会での議論の対象)

ごみステーションの位置が極端に遠い、
階段の昇降が必要

ごみ出し困難者への支援

ごみ出し支障者への支援

【対応（要検討事項）】

事業所等の改善・充実による対応

介護ヘルパーや支援団体が
対応しやすいごみ出しルールへの運用

ステーション追加※（簡易的なものを
含む）に向けた地域内での協議促進

町によるごみ出し困難者
への戸別収集

地域コミュニティ内の共助の
取り組みを促進